

ほくらはみんな生きている

地球上では様々な生き物が影響し合い共存して暮らしています。身近に存在している動物や植物、微生物など”ヒト以外の生き物”の世界をのぞいてみると、今まで気にしたことなかったような新しい発見があるかもしれません。生き物たちの豊かな個性とそのつながりを知ること、日々支え合って生きている身の回りの命一つ一つに目を向けてみませんか。

紹介した本は、新座市の中央図書館、福祉の里図書館、公民館図書室等の分館で借りられます。みなさんどうぞ読んでみてください。

2025.4 NO.12

新座市立中央図書館

〒352-0011 新座市野火止 1-1-2

☎048(481)1115

図書館 HP



モバイル



作成館：福祉の里図書館 / 〒352-0013 新座市新塚 1-4-5 / ☎048(481)7070



動物の見える世界

ギヨーム・デュプラ／著 渡辺滋人／訳 創元社（480 円）

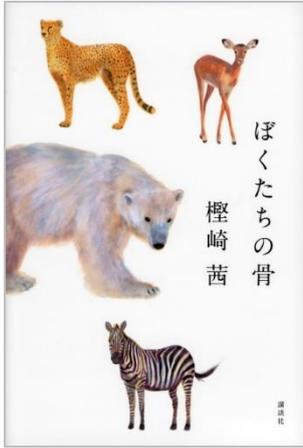
猫には夕焼けが見えていないことを知っていますか？この本は人間とは全く違う動物たちの視界を体験できるユニークな一冊です。犬はぼんやりとした色の世界を、鳥は紫外線まで見える鮮やかな景色を、昆虫はモザイクのような視界を持っています。本を開くと、動物ごとの「見え方」が仕掛けで再現され、生き物の多様性の面白さを実感できます。「同時に違う景色が見える」カメレオンの世界とはどんなものだと思いますか？他の生き物が見ている世界もぜひ確かめてみてください。



ハミングベアのくる村

キャサリン・アップルゲイト／作 尾高薫／訳 偕成社（933 円）

美しい動物ハミングベアが飛来する村で、観光の邪魔という理由で駆除対象となった嫌われ者の動物サケビー。しかし、観光地として村を整備する中でなぜかハミングベアの飛来が減ってしまいます。村にいた最後のサケビーが殺されたことをきっかけに一人の少女が怒りの涙を魔法に変えて訴え、村の人々の心を動かします。大事なものの為に声を上げる大切さと生き物はつながりあい意味のない命などないのだと気づかせてくれる、人間と自然界の関係性を考えるきっかけとなる一冊です。



ぼくたちの骨

榎崎茜／著 講談社（Y913カ）

陸上部の千里は足を痛めて休部中、友人の付き添いで訪れた閉園予定の動物園でチーターの古い剥製と出会いました。本来の走りができそうにないその姿に自分を重ね、走れるような姿に戻ってあげたいと思い、剥製の修復作業に関わっていきます。生きている動物のいる動物園と、死んだ後の姿を展示する博物館。違うように見える二つの施設のつながりを知って、動物の生態観察をすることと、剥製にして生きていた頃の姿を後世に残すことの意味を一緒に考えてみませんか？



農はいのちをつなぐ

宇根豊／著 岩波書店（Y610ウ）

食べることは「いのち」を奪いながら、「いのち」を引き継ぐ「農」の欠かせない一部であり、生きものと私たちのいのちがつながっていることを意識して実感できる瞬間です。この本では、400種類以上の生きものが集まるいのちの交差点「田んぼ」に焦点を当て、生きものたちの目線からいのちをつなげる農の営みについて語られています。農とはなにか？人と生きものいのちをつなぐことの重要性とは？知ることで、身の回りの生きものたちの語り声に耳を傾けてみてはいかがでしょうか？



タネまく動物 体長 150 センチメートルのクマから 1 センチメートルのワラジムシまで
小池伸介／編著 北村俊平／編著 きのしたちひろ／イラスト 文一総合出版（468タ）

植物は動物が果実やタネを食べ移動することで、別の地で芽を出します。これは『種子散布』といわれる植物の移動手段の一つです。この本では 18 人のメンバーたちが動物と植物との共生関係を通して、生命の循環や生態系の大切さについて教えてください。コラムのページにはイラストや写真もあって、とてもわかりやすく書かれており、そのページから読んでみるのもおすすめです。



若い読者に贈る美しい生物学講義 感動する生命のはなし

更科功／著 ダイヤモンド社（Y460サ）

「生物学」と聞くと難しい印象を受けるかもしれませんが、「この本を読んでいる間だけでも、生物学を美しいと思い、興味を持ってほしい」と著者が言うように、わかりやすく語られていて、細胞、植物、動物、人類やその進化、遺伝など、生物学について幅広く知ることができます。地球規模の様々な生き物の生態系はもちろんですが、自分の体の中にもたくさんの細菌や細胞が作る生態系がある、という事を意識するだけで生物学をもっと身近に感じるかもしれません。